



サンキョウだより 【10月号】

朝夕めっきり涼しくなり、紅葉の便りが聞かれることとなりました。
 皆様、いかがお過ごしでしょうか。
 環境NEWSLETTER「サンキョウだより」では、より良い情報を提供して参りますので
 変わらずご愛顧の程、宜しく願い申し上げます。



国内ニュース

事業関連

**スパコン「京」、ペロブスカイト太陽電池
 の新たな材料候補を発見**

理化学研究所は、スーパーコンピュータ「京」を利用し、膨大な数から適切な材料を効率よく探し出すスクリーニング手法により、「ペロブスカイト太陽電池」の新たな材料候補を、11,025個の化合物から51個発見したと発表しました。

今回の研究では、まず「二重ペロブスカイト」と呼ばれる「A2B'BX6型」の化合物を対象として、シミュレーションにより、既知の化合物中の元素を別の元素に置き換えて新しい機能を持つ化合物を理論設計することで、合計11,025個という膨大な数の組み合わせの化合物を選び出しました。

続いて「京」を用い、これらの化合物に対して、マテリアルズ・インフォマティクス手法（新規材料設計を従来よりも大幅に効率よく実現する手法）により、ペロブスカイト太陽電池として適切な材料を探索しているようです。

政府の「廃棄物処理・3Rを促進する社会づくり」、長期計画の指針8つ

環境省は10月2日、新たな循環型社会形成推進基本計画の策定のための具体的な指針が、中央環境審議会会長から環境大臣へ意見具申されたと発表しました。

循環型社会形成推進基本計画は、廃棄物などの3R（リデュース・リユース・リサイクル）を促進し環境への負荷を低減する社会づくりに向けた方針や施策等をまとめたものです。

この指針では、日本の循環型社会形成に向けて中長期的な方向性を設定し、そこから振り返って何をすべきかを検討しています。

詳細は、環境省のホームページを参照してください。

環境省、「水銀に関する水俣条約第1回締約国会議」の結果を公表

環境省は、9月24日（日）から29日（金）までスイス・ジュネーブにおいて開催された「水銀に関する水俣条約第1回締約国会議」について、結果を公表しました。

会議には約150か国から約1200名が参加し、事務局の組織体制等の運営に関する事項、実施状況の報告等の技術的事項等が議論されたほか、閣僚級会合が開催されました。

また、会合期間中には、我が国の水銀対策を紹介するポスターや水俣から世界に向けたメッセージ等の展示を行いました。

次回第2回締約国会議は、2018年11月にスイス・ジュネーブにて開催される予定です。

「災害時における石綿飛散防止に係る取扱いマニュアル（改訂版）」を公表

環境省は、東日本大震災や平成28年熊本地震といった大規模な災害の経験を踏まえ、平成19年に作成した「災害時における石綿飛散防止に係る取扱いマニュアル」を改訂しました。

「津波等により発生した混合廃棄物の処理における留意事項」について、新たに章立てを追加したほか、平成25年6月の大気汚染防止法の改正等

法令等の改正に伴う修正を行うなどの改訂をしました。

また、本改訂に伴い、平成29年4月28日（金）から平成29年5月29日（月）までパブリックコメントを実施し、14団体・個人から64件の意見が提出されました。

アジア太平洋諸国、気候変動対策にむけてもっと政策対応を進める認識

環境省は10月5日、9月26日・27日の2日間、フィジー・スバで行われた、アジア・太平洋地域におけるCOP23（国連気候変動枠組条約第23回締約国会議）準備ワークショップの結果を報告しました。

これは、適応計画策定・実施の効果的・効率的な実施、2020年以降の透明性の枠組み等について技術的・実務的な観点から議論を行うことを目的に行われたものです。ワークショップの名称は、「アジア・太平洋地域におけるCOP23準備ワークショップ/第26回気候変動に係るアジア太平洋地域セミナー」で、環境省主催、外務省/フィジー政府/オーストラリア外務・貿易省との共催で行われました。

「新ホームページを「ご覧ください」
 弊社が提供するサービス、環境ニュース
 環境実習に関する情報などを提供して
 おります。是非、「ご覧ください」。

「ご相談ください！」
 環境に関する管理やクレームにお悩み等

